

# 市民かわら版

第33号

平成25年1月15日  
編集/市民力かわら版編集委員会  
発行/矢板市総合政策課  
電話：0287-43-1112  
ファクス：0287-43-2292  
Eメール：  
yaita@city.yaita.tochigi.jp



## 矢板の歳時記 お正月あれこれ

**●年末の行事**  
十二月二十七日  
「おまつ様」と呼ばれ、小枝が3段(7、5、3の奇数)になった状態で松の枝を切り、しめ縄の準備としてわらをしいごいて飾り付けの準備をする。  
二十八日「餅つき」  
供え餅を二十数組つくり、敷地内の各所と近所数軒で管理している鎮守の森と不動尊に供える。  
二十九日「く(苦)の日」  
掃除をする程度。  
三十日 準備の日  
三十一日 松やしめ縄を各所に飾る。

**●年始の行事**

一日  
大晦日に貯めていた朝風呂に入り身を清めてから若水をくむ。以前は井戸からだったが、今は水道から。ひしゃくに十二回(うるう年は十三回)くみ、その年の神様の居る方角(恵方)に向い拝礼する。



大きな神棚にたくさんのお飾りが

◆二日～三日  
若水を汲み、元日と同様に各所に供える。  
◆十三日  
餅をつき、マユダマ(ひし形の餅)を作り枝に刺す(神様によって木の種類が異なる。(水の神様にはミズの木、年神様にはカシの木、天神様には梅の木、他はネジリ木を奇数の枝に刺す)  
◆十四日  
小正月で飾り物を取り外し、それをどんど焼で燃やす。(マユダマを焼いて食べるとその年は風邪を引かないといわれている)

**●この行事が続いた理由?**

明治から昭和にかけて女系家族が続いたことが大きな理由。「母親としては今まで続けていたことを自分が勝手に中止できないとの思いがあったのではないか」また、「うちは農家で、農業は自然を相手にしている。この行事をやっていることで平穩無事に過ごさせていると思う。もし中止し、何かが起こったら悔やむことになるので、これからはこの風習もこの風習は出来る限り続けたい」と、笑顔で話してくれました。(T・M)



お正月あれこれ  
各家庭での様子

### お正月あれこれ 各家庭での様子

- ◆和田家(片岡)  
一日早朝、家族揃って水神様ほか豆餅と酒を供える。
- ◆高田家(本町)  
一日早朝、若水をくみ、家内の神棚ほか数ヶ所に赤飯とお茶を供える。
- ◆小野崎家(下伊佐野)  
一日夜明け前に寺山観音に初詣。
- ◆森戸家(東泉)  
一日、敷地内の各所二十数ヶ所に、餅・酒・水・神を息子と一緒に供える。
- ◆和気家(塩田)  
十二月二十八日には、正月飾り用に家族総出で裏山から竹を切り出し、門松をつくる。節のところに穴を開け、南天、松、梅の枝を飾る。  
一日、敷地内の氏神、山の神、仏壇、神棚などに赤飯を供える。朝食後、家族揃って、日光(東照宮・二荒山神社)に初詣。

**お正月豆知識**

・お節料理は、家族の幸せを願って食べる伝統料理で、お正月の神様、年神様に供える料理であり、家族の幸せを願う縁起物です。  
例えば、海老(腰が曲がるまで長寿)カマボコ(断面から、日の出蒲鉾ともいい、新しい門出を象徴)数の子(子孫繁栄、多産の願い)黒豆(マメに暮らせる)など

